

2015年7月 会社の雰囲気を1W^{70%}明るくするコミュレポ

皆さん、こんにちは。私は、コミュニケーションについての気づきを毎月1回、振り返ることにしています。せっかくなので日頃お世話になっている皆さんにもシェアできればと思いこのようなレポートを記述することにしました。ご笑読頂ければ幸いです。

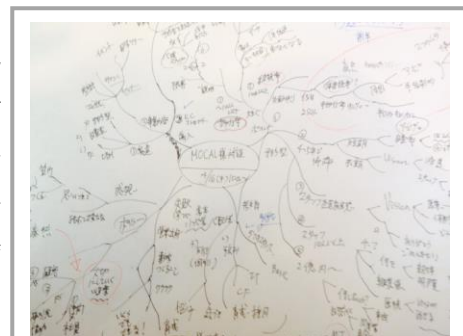
丹羽 佳之

話し上手に見せる“秘密”

4月16日に、歯科医院向けに「Mr. 歯科事務長」サービスを行うMOCAL株式会社様が企画する経営成功術対談のゲストにお招きいただきました。私は、いつもインタビューする方ですが、今回はインタビューされる側でした。対談が終わった後、インタビューアの今野賢二さんから「ちょうど70分ですね、話も1つ1つまとまっていて編集も必要ないし、ありがとうございました」と驚いたように言われました。私は大体、そういうものじゃないかと思っていたわけですが、他の方はどうなのか今野さんにお聞きすると「いや〜、人によっては3時間ぐらい話して、そこから無駄なところ、言い回し、重複を削除して、編集することもありますよ」とのことでした。それは大変だなと思いながら、何が違うのか、振り返ってみると、準備の有無かな？ と気が付きました。

私は、セミナーにしても対談にしても準備せずに臨めるほど、自信もないし、心臓も強くないため、必ず準備します。対談準備とは、事前に想定された質問内容を基に、まず自分なりの答えをマインドマップに書き出します。

その後、リハーサルを事務所のスタッフやコンサルタント達に同席してもらって行います。リハーサルすると、書き出したマインドマップ上は明確でも、自分が上手く話せていない箇所が浮き彫りになるため、話し方、言い回し方を再考できます。また最後に、同席したスタッフ達に「分かりにくかったところはないか？」確認してもらいます。セミナーなどの準備であれば、場合によってはリハーサルを2、3回行うこともあります。



走り書きの【準備】マインドマップ

しかし、実際の本番当日は、準備通りに行くことは、まずありません。対談であれば、話の展開がどんどん変わることもあります。では、準備の意味は何か？ と考えると、自分の心に余裕を持たせるためです。つまり「リハーサルであれだけやったから、大きく間違えることはない」と自分自身に思えるわけです。実は当初、私はここまで準備せずに本番に臨んでいました。すると終わった後「もう1回、やりなおしたいな」「もう1回やったら、あそこはもっと上手く話せたのにな」とよく思う自分に気づいたのです。それなら、最初から練習しておけばいいじゃないかという具合です。どうやら、これは慣れの問題でもない私は考えています。私のように小心者(?)には一種のおまじないのようなものです。今まで私と同じような気持ちになった方、あるいは、セミナーや対談に招かれることも多くなりそうな院長方にはこの準備をお勧めします。これには小さなおまけがあって、セミナーが内容以上に好評価をもらえるのと同時に、自分にはこの上ない達成感を味わえるのです。